

2012年11月発売

# 「環境工学より見た 放射能リスク今昔」

内藤幸穂 著

東日本大震災により、放射能汚染という新たな問題が提起されました。かつて著者が翻訳刊行した『如何にして放射能から身を守るべきか』、『公害事典』さらに『水質汚染防止と産業廃液処理』、それぞれの放射能にかかわる項目が、今日の世界に即応しており、それらを基に書き直して、本書「環境工学より見た放射能リスク今昔」の刊行に至りました。

ここでは、放射能についての今昔として、廃棄物処理・処分の立場から放射能汚染についてアプローチし、少しでも真実に近づこうとしながら、廃棄物処理に関心を持つ方々を対象に書かれています。

## 【目次】

序章 水道水から汚染物を除く

第一章 環境衛生の歩み ー廃棄物処理の立場からー

第二章 放射能の危険度 ーいかにして放射能から身を守るかー

第一節 何も知らないことは恐怖を生む

第二節 恐怖は恐慌を生む

第三節 原子爆弾の作用

第三章 廃棄物処理から見た放射能リスク

第一節 原発をつくる過程でのロウリスク

第二節 原発は必要だったのかのハイリスク

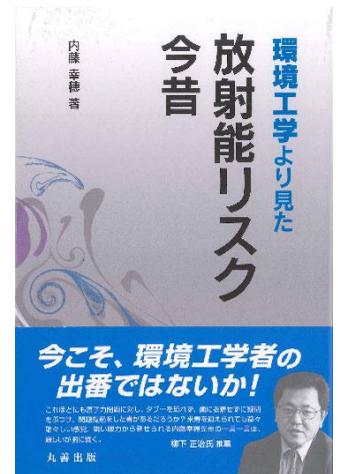
第四章 次代の環境工学者へ

索引

## 【著者紹介】

内藤幸穂(ないとう さちほ)

大正13年生まれ。昭和21年、東京大学工学部卒業。41年、工学博士學位取得。41年、中央大学理工学部教授。46年、タイ国チェラロンコン大学客員教授。47年、有限会社内藤幸穂事務所代表取締役。56年、関東学院大学工学部教授。64年、同大学長。平成3年、学校法人関東学院理事長。同16年、英国オックスフォード大学フェロー。21年10月、関東学院大学名誉教授。現在に至る。



四六版 184ページ  
ISBN978-4-621-08613-1  
定価1,890円(税込)